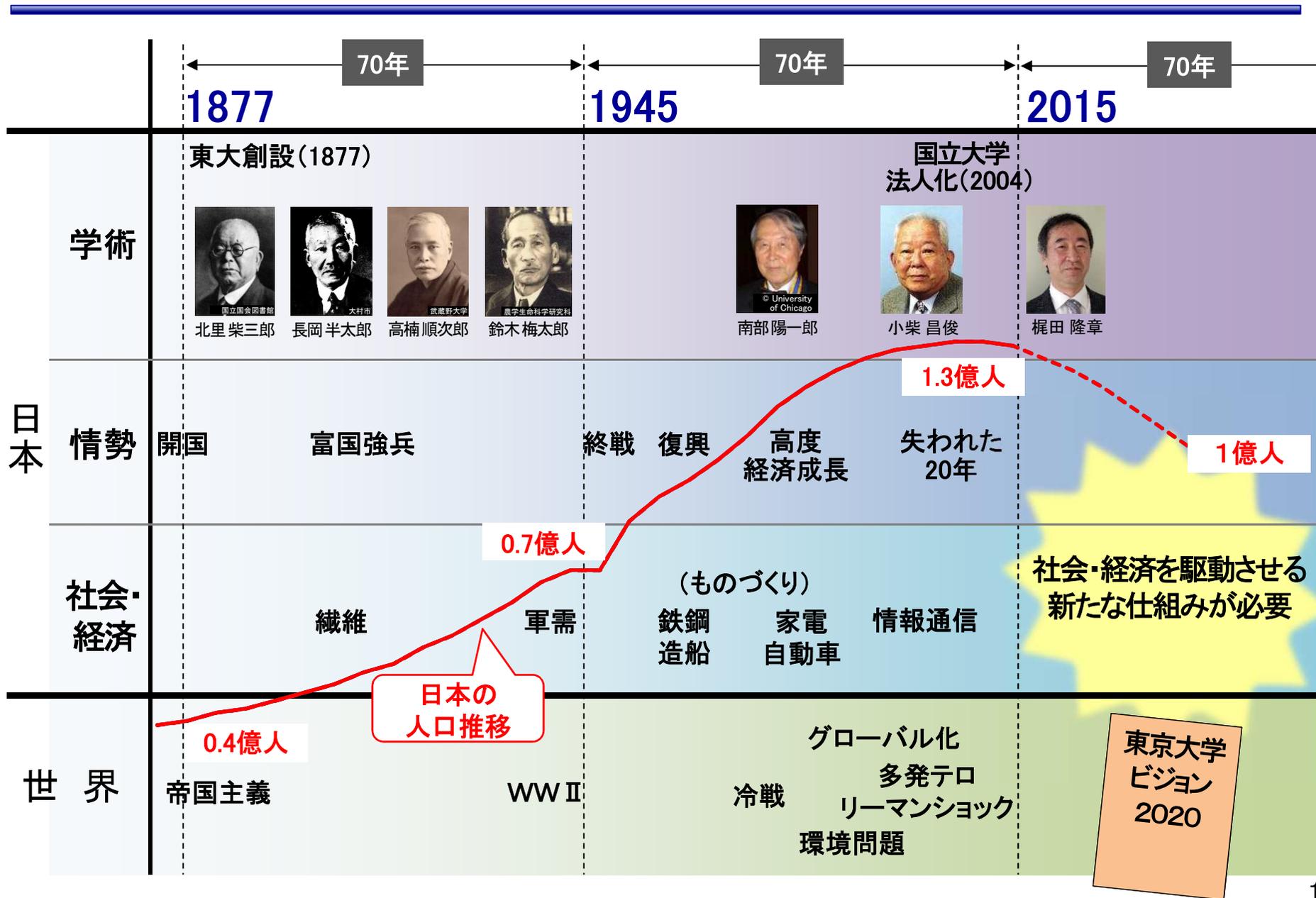


東京大学138年



東京大学138年

- 戦後70年。次の70年をどうするか。
- 科学技術の飛躍的な進歩を背景に、人類はかつてない大きな力を得た。
- 一方、人類は、自ら生み出した科学技術を社会に真に役立てるための知恵を、十分に備えていない。
- 社会を支える基本的な仕組みである資本主義や民主主義そのものにも、限界が見えてきている。
- 新たな経済社会の駆動モデルが必要。
 - 社会的共通資本 (Social Common Capital)
 - CSV (Creating Shared Value)
 - SDGs (Sustainable Development Goals)
 - ...



国立国会図書館
北里 柴三郎



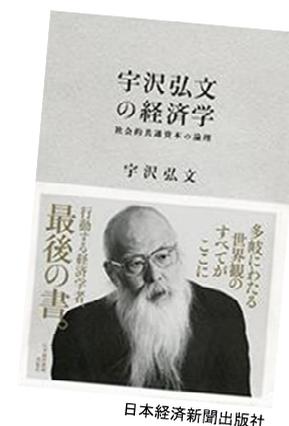
大村市
長岡 半太郎



武蔵野大学
高楠 順次郎

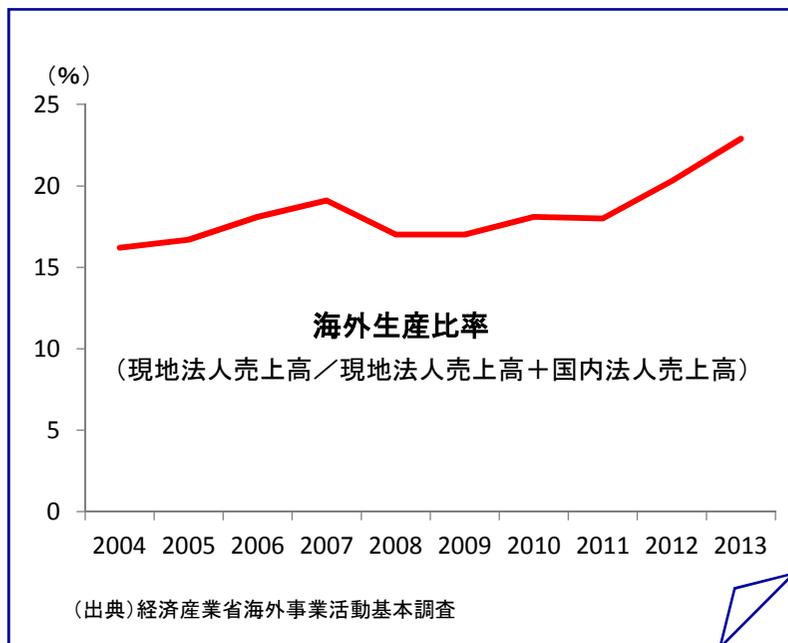


農学生命科学研究科
鈴木 梅太郎

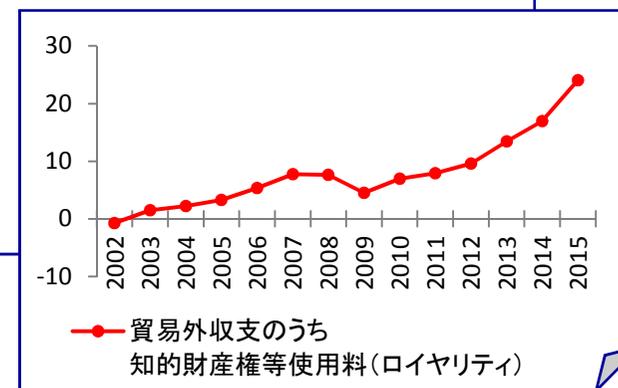
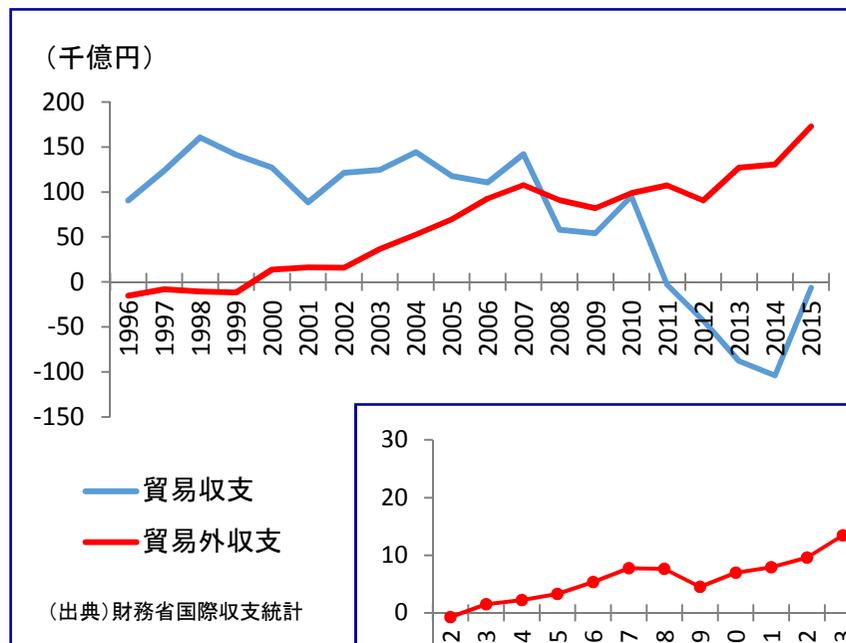


日本の産業・経済の構造変化

海外生産比率の上昇



経常収支の構造変化



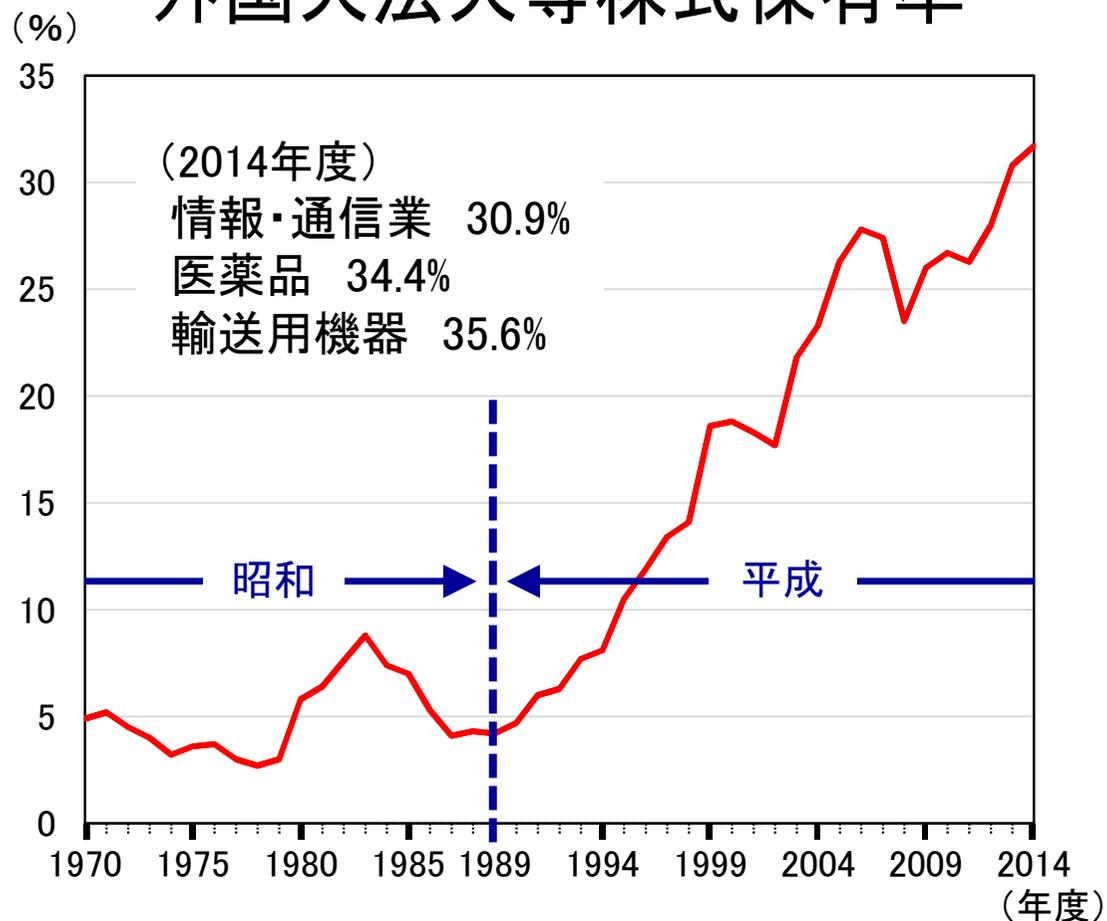
製品輸出



知的な資産による資金獲得
(ものづくりなど既存の強みを活用)

日本の産業・経済の構造変化

外国人法人等株式保有率



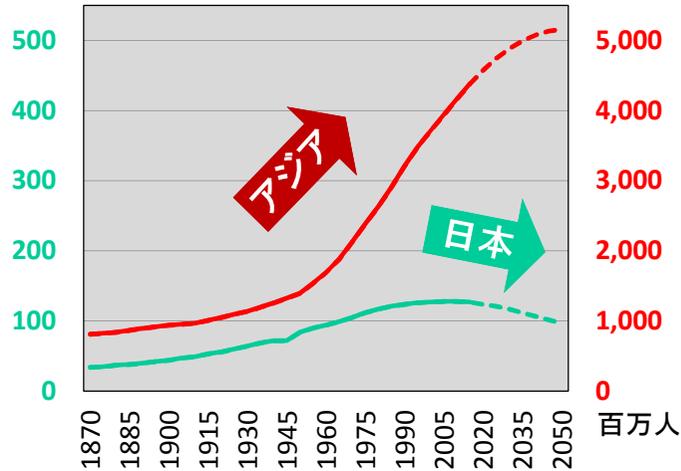
(注) 2004年度から2009年度までは、ジャスダック証券取引所上場会社分を含む

(出典) 日本取引所グループ 株式分布状況調査

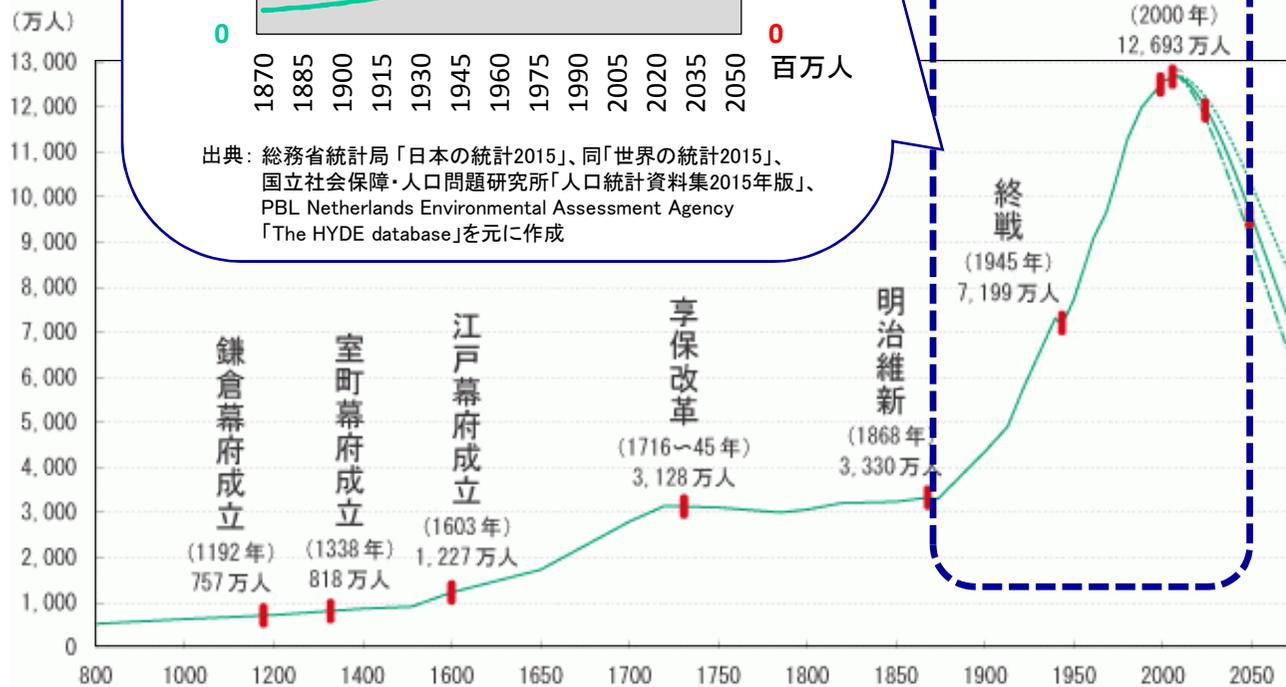
より短期の利益が求められる状況

世界・アジアの産業・経済の構造変化

日本及びアジアの人口推移



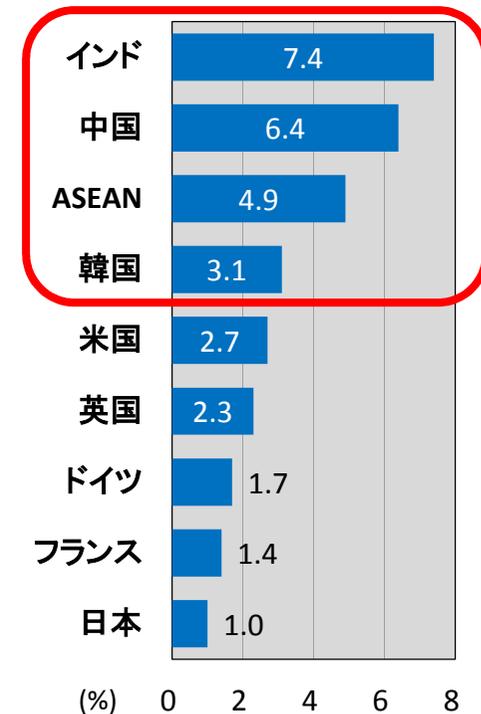
出典：総務省統計局「日本の統計2015」、同「世界の統計2015」、
国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2015年版」、
PBL Netherlands Environmental Assessment Agency
「The HYDE database」を元に作成



日本の人口推移(長期)

出典：国土交通省国土政策局

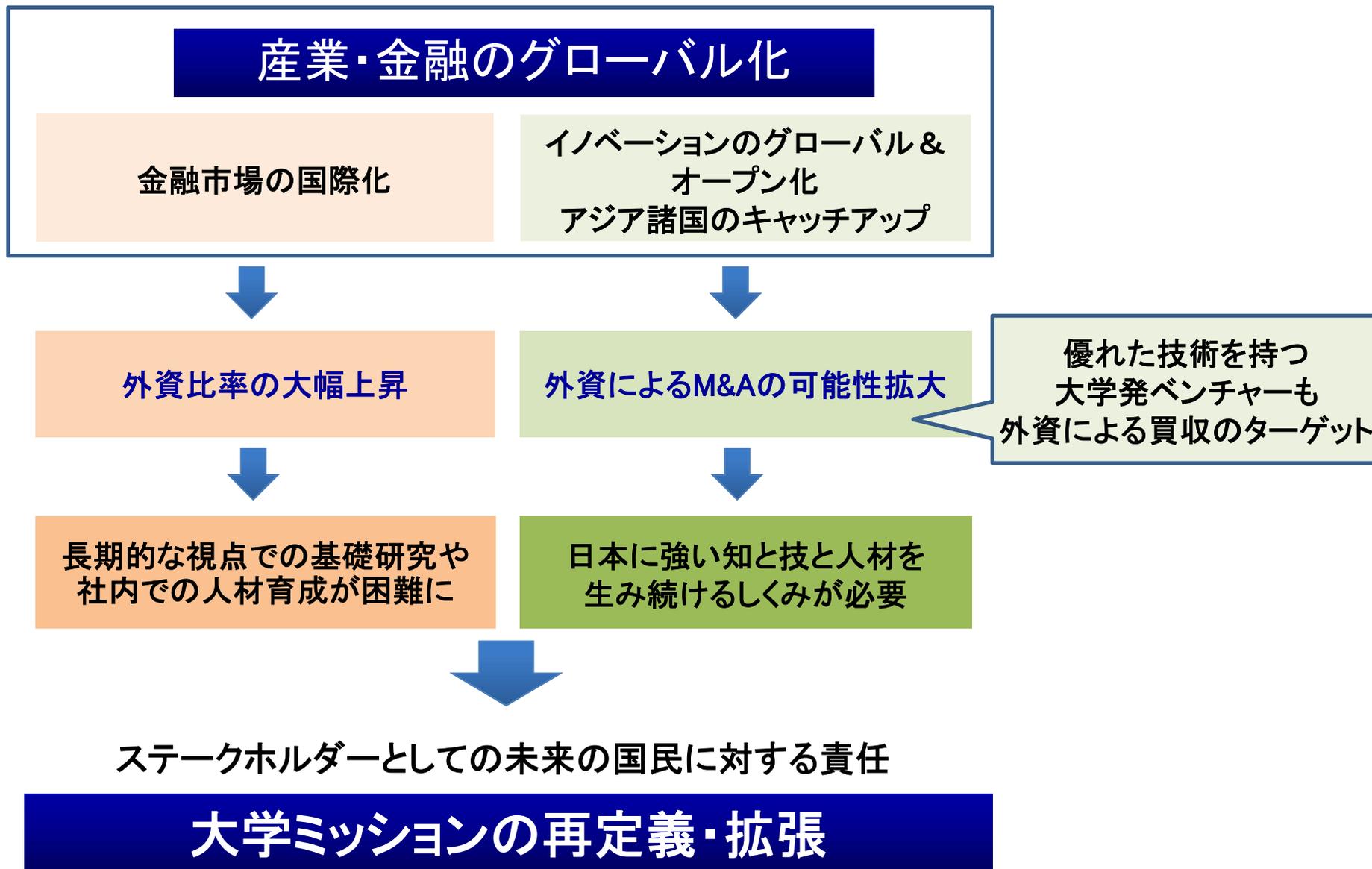
実質経済成長率 (国際機関による2016年見通し)



出典：内閣府「世界経済の潮流2015年II」
を元に作成

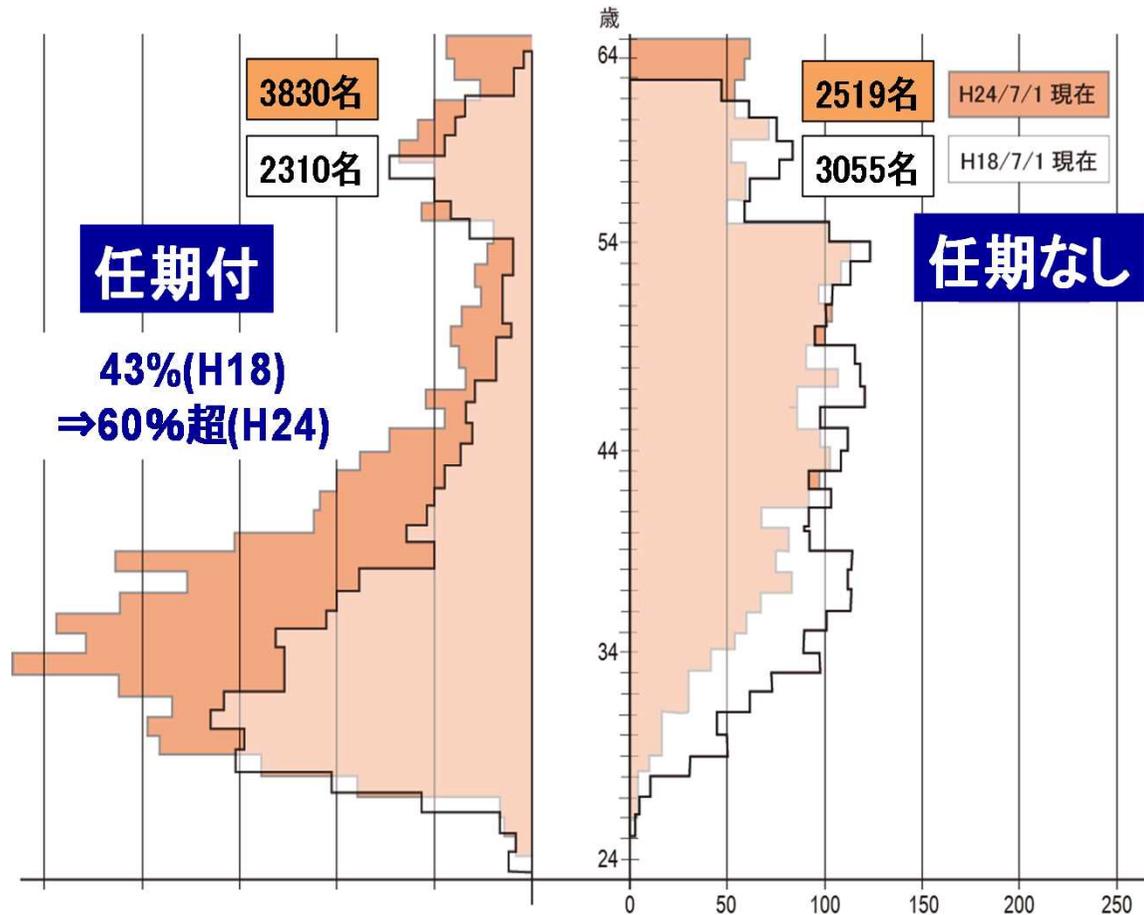
**アジアでの人口増
アジアは成長エンジン**

産業経済のグローバル化と大学の役割



若手の研究離れ

教員研究員在職状況(東京大学)



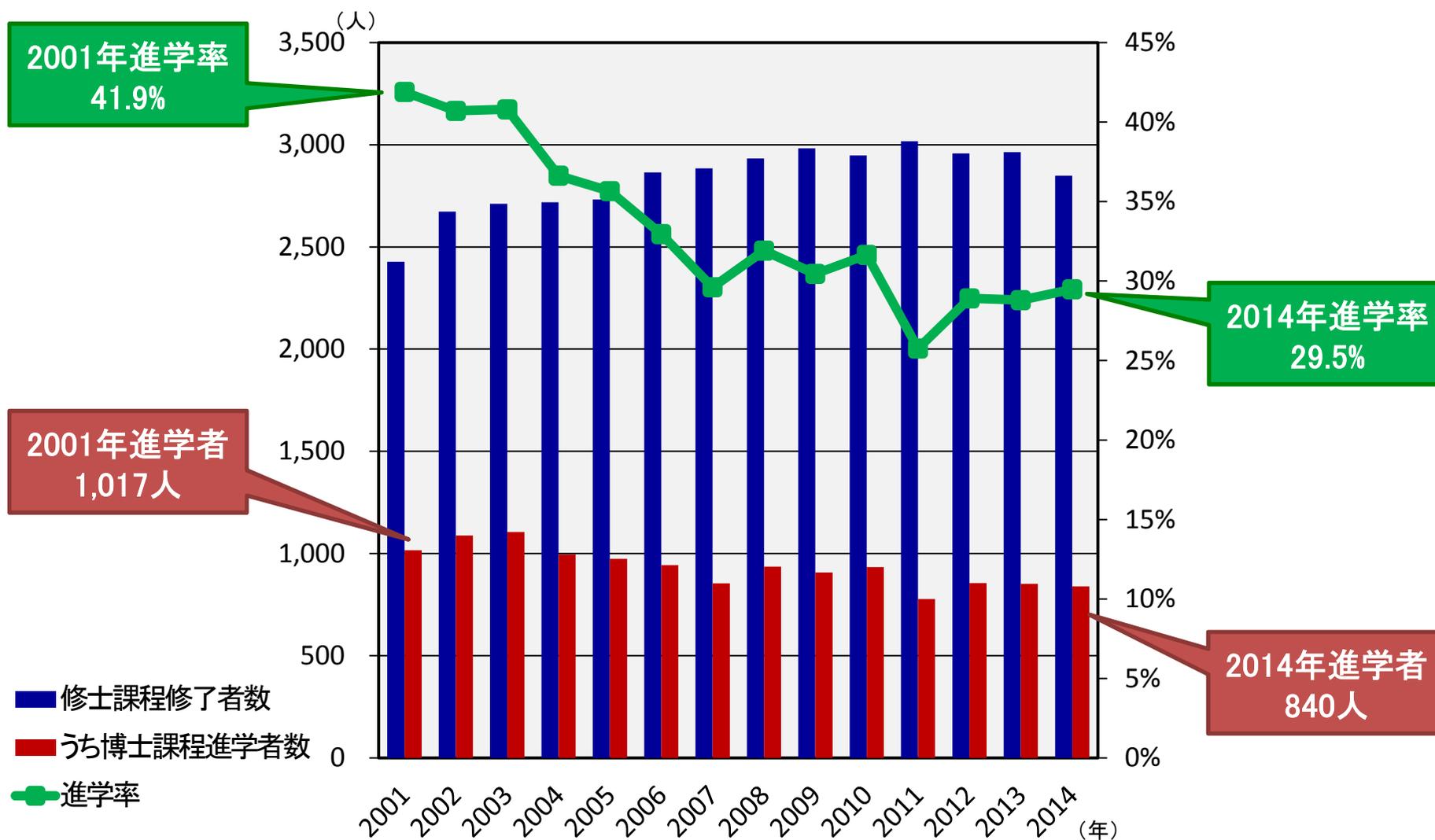
雇用の日米比較

	産業界	大学
米国	競争 流動 不安定	終身雇用 (テニユア)
VS		
日本	安定	不安定

米国ではアカデミアのテニユアは最も安定な職業
日本ではアカデミアが一番不安定

国費による若手の不安定雇用が常態化

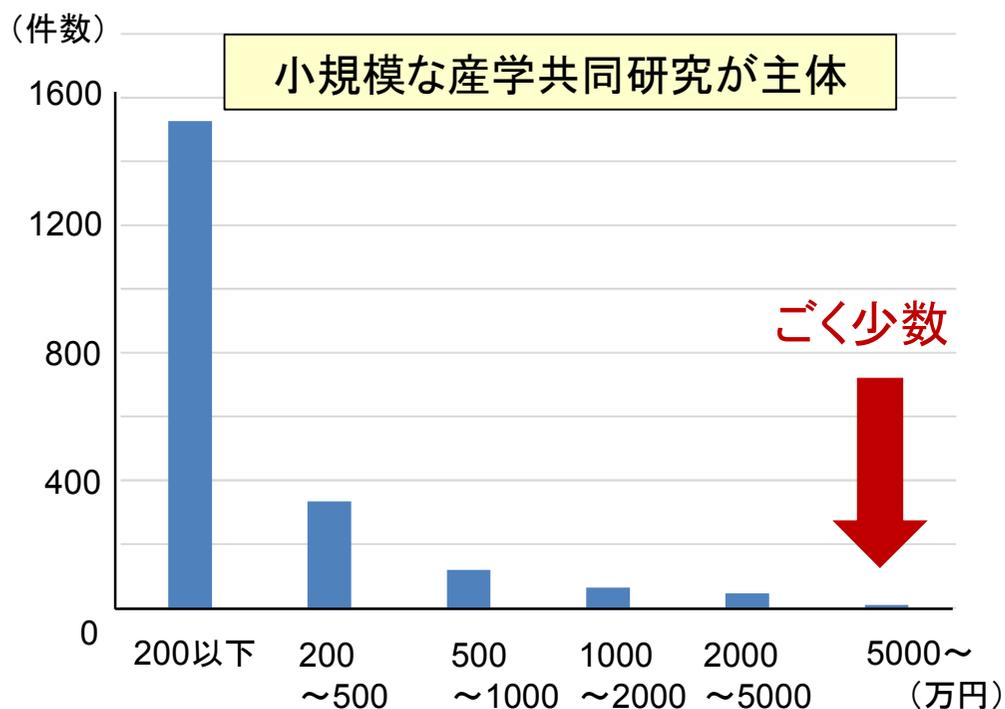
大学院学生数の推移



博士課程進学率の激減

産学連携における課題

東京大学の産学連携の規模



- 共同研究数は国内トップ
- 200万円以下の小規模なものが主
- 総額も年間事業規模(2,300億円)に比して小規模
- 共願特許の実施数は多くないと推定される

東大の産学連携の状況 (2014)

- ・ 民間との共同研究: 1,371件 (48億円)
- ・ 特許権実施: 2,129件 (収入3.4億円)

文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」に掲載

企業活動に入り込めていない

産学官民の同時改革を駆動する大学

日本が持つ強み



知識基盤経済化

- ものづくり力
- 成長の中心であるアジア立地
- 高い数学力 等

変革を駆動する役割を担う大学へ

1. 知識基盤経済の鍵

- 新たな価値創造に挑む「知のプロフェッショナル」の育成

2. 短期的な効果を狙う方策 — 既存資源の有効活用

- 優秀な社会人の活用や研究者支援の充実によるイノベーション加速
- 産学官民の本気の協働を駆動

3. 中・長期的な視点 — 「卓越性」と「多様性」

- 起業家マインドを持った人材を文理の多様な分野において育成
- 融合分野からのベンチャー創出